

2008 第一回

台日原住民族研究論壇

日台原住民族研究フォーラム

1st Taiwan-Japan Forum on Aboriginal Studies, 2008

文 | 陳文玲 (政治大學民族學系助理教授) 翻譯 | 石村明子 (國立政治大學民族學系碩士班) 圖 | 編輯部

【會議序幕】

政大原住民研究中心於8月29-30兩日，假政大行政大樓七樓第五會議廳，主辦「第一屆台日原住民族研究論壇」，台灣原住民教授學會為協辦單位。邀請到原住民族研究的日本學者7名、台灣與日本留學生、國內各大學相關系所代表、14所大學原住民研究中心以及與原住民研究相關的學者專家參加。簽到人數共計有100人。

開幕典禮，由左至右分別為：行政院原民會林江義副主委、政大原民中心林修澈主任、政大校長吳思華、橫濱大學笠原政治教授、中研院台史所許雪姬所長。

【フォーラム開幕】

8月29-30日の2日間にわたり、政治大学原住民族研究センター主催、台湾原住民教授学会の共催で、「第1回日台原住民族研究フォーラム」が政治大学行政大樓7階の第5会議室で行われた。原住民族研究の日本人研究者7名、台湾人・日本人留学生、国内大学関連学科の代表者、14の大学原住民族研究センター、及び原住民研究関連の研究者・専門家を招待し、参加人数は100名に及んだ。



Aug. 29 Friday

- | | |
|-------------|---|
| 8:30-8:50 | 報到 |
| 8:50-9:10 | 開幕典禮 |
| 9:10-10:30 | 專題演講 馬淵東一與台灣原住民研究 |
| 10:40-12:30 | 第一場、原住民研究成果
《山豬狩獵的民族考古學》 野林厚志
《原住民運動史料彙編》 夷將·拔路兒
《原住民歷史語言大辭典》 孫大川 |
| 12:30-13:30 | 午餐時間 |
| 13:30-15:10 | 第二場、原住民研究動向 I
貓霧寮社蕃曲與拍瀑拉族 清水純
平埔族小組的組織與運作 潘英海
解讀少女Otai與牡丹社事件的諸相 山本芳美 |
| 15:10-15:30 | 茶敘 |
| 15:30-17:30 | 第三場、原住民研究動向 II
史前博物館的台日研究合作報告 林志興
日治時代警察統治與台灣原住民社會化的過程 松岡格
日本時代的台灣理蕃警察 石丸雅邦
2006-2008年博碩士論文原住民研究的趨勢 王雅萍 |
| 17:30-19:00 | 民族風味餐 |

Aug. 30 Saturday

- | | |
|-------------|--|
| 8:30-9:00 | 報到 |
| 9:00-10:00 | 專題演講 台灣原住民認定10年回顧 林江義 |
| 10:20-12:20 | 第四場、近年的台灣民族認定發展
原住民的傳統領域與自治 汪明譚
原住民傳統生態知識 林益仁
太魯閣自治的路 帖喇·尤道
賽德克族的民族認定 伊萬納威 |
| 13:30-14:50 | 第五場、主題座談 I
座談主題：民族認定與民族分類
笠原政治
野林厚志
劉益昌
林修澈 |
| 15:10-16:40 | 第六場、主題座談 II
座談主題：今後台日學術交流論壇的走向
蔡中涵
清水純
薛化元
山本芳美
孫大川 |
| 16:40-16:50 | 閉幕 |

【會議緣起】

回溯2003年暑假，政大原民中心林修澈主任邀請到幾位當時正在台灣進行田野訪問的日本學者進行座談會，雙方交流甚歡。2005年由日本學者策畫的一場「台灣原住民研究：日本と台湾における回顧と展望」的國際研討會，在日本東京外國語大學舉行，邀請政大組團與會。林主任帶領博碩士生共8人前往參加，做出專題演講及發表6篇論文報告，獲得日本學界的熱烈迴響。該次會議的結果結集在日本的學術刊物『台灣原住民研究 別冊2』上。之後，雙方的學術交流不間斷，為求延續與擴大，政大原民中心於是構想連結國內相關機構與日本之間的交流論壇，於是有了今年這場學術論壇的誕生。

【フォーラムの発端】

話は2003年の夏休みに遡る。政治大原住民族研究センター長・林修澈は台湾でフィールド調査を行っていた日本人研究者を招いて座談会を行い、互いに交流を楽しんだ。2005年、日本人研究者の企画による「台湾原住民研究：日本と台湾における回顧と展望」国際シンポジウムが東京外国語大学で行われ、政治大のグループも招かれた。林センター長率いる修士・博士課程の学生8人が参加し、基調講演との6本の論文・報告の発表を行い、日本の学界から相当な関心が寄せられた。なお、このシンポジウムの成果は日本の学術刊行物『台湾原住民研究 別冊2』に収められている。そしてその後も双方の学术交流は途切れることなく、政治大原住民族研究センターは交流をさらに継続し拡大するために、台湾の関連機関と日本側を結ぶ交流フォーラムの構想を練り、今年の学術フォーラムが誕生するに至ったのである。



【政大校長特地來致詞歡迎】

吳思華校長得知這場台日論壇，特意在滿檔的行程中撥出時間蒞臨會場致辭，熱烈歡迎日本學者們與全國原住民研究關構的代表們參加。

【會議內容】

這場會議安排有2場專題演講，5場最新研究成果發表，11篇論文研討與2場的主題座談。專題演講分別是由，日本順益台灣原住民研究會會長笠原政治教授（橫濱國立大學名譽教授）主講「馬淵東一與台灣原住民研究」，以及行政院原民會副主委林江義先生主講「台灣原住民認定10年回顧」。兩天會議的內容與討論即圍繞著這兩大主題而進行。

【政治大学長による挨拶】

吳思華学長は、この日台フォーラムが行われることを知ると、スケジュールがぎっしりと詰まっているにもかかわらず、特別に時間を割いて会場にて挨拶を行い、参加した日本人研究者や全台湾の原住民研究機関の代表者を心より歓迎した。

【フォーラムの内容】

このフォーラムでは2つの基調講演のほか、5部にわたる研究の成果発表では11の報告とコメント、2つのテーマ別座談会が行われた。基調講演は台湾原住民研究会代表の笠原政治教授（横浜国立大学名誉教授）による「馬淵東一と台湾原住民研究」と、行政院原住民族委員会副委員長の林江義氏による「台湾原住民認定10年の回顧」であり、2日間のフォーラムの内容と討論はこの二大テーマを巡って行われた。

國內原住民相關大學系所及研究單位分別擔任各場的主持人或討論人，有許雪姬（中研院台史所）、詹素娟（全所）、童元昭（台大人類系）、傅琪貽（政大日文系）、紀駿傑（東華大學族群所）、許功明（台東大學南島所）、鴻義章（慈濟大學原住民健康所）、謝嘉梁（台灣文獻館）。新作發表有野林厚志（國立民族學博物館）、夷將·拔路兒（Icyang·Parod·民進黨族群事務部副主任）、孫大川（政大台文所）、周水珍（東華大學教育學系）、童春發（教育部國語會主委）。論文發表與討論有清水純（日本大學經濟學部）、潘英海（暨南大學人類所）、山本芳美（都留文科大学比較文化學科）、陳文玲（政大民族系）。學界新銳有林志興、松岡格、石丸雅

フォーラムでは、許雪姬（敬称略、以下同様。中央研究院台湾史研究所）、詹素娟（同左）、童元昭（台湾大学人類学科）、傅琪貽（政治大学日本語学科）、紀駿傑（東華大学族群関係與文化研究所）、許功明（台東大学南島文化研究所）、鴻義章（慈濟大学原住民健康研究所）、謝嘉梁（台湾文獻館）などが、台湾の原住民関連の学科及び研究機関がそれぞれの部で司会やコメントーターを担当した。また、野林厚志（国立民族学博物館）、イチャン・パルー（民进党族群事務部副主任）、孫大川（政治大学台湾文学研究所）、周水珍（東華大学教育学科）、童春發（教育部国語会委員長）などが新著を発表した。その他、清水純（日本大学経済学部）、潘英海（暨南大学人類学研究所）、山本芳美（都留文科大学比較文化学科）、陳文玲（政治大学民族学科）が論文発表およびコメントを行った。また、林志興、松岡格、石



專題演講《馬淵東一與台灣原住民研究》，主講人笠原政治教授（前排正中間者）與貴賓們合照。

邦、王雅萍、李宜憲、帖喇·尤道、伊萬納威。會中擔任發言有汪明輝（台師大地理系）、林益仁（靜宜大學南島民族研究中心）、劉益昌（中研院史語所）、蔡中涵（台灣原住民教授學會）、薛化元（政大台史所）。另外，謝繼昌（台大人類系）、堀江俊一（中京女子大學）、楊南郡（民間研究者）、三尾裕子（東京外國語大學）、魏德文（南天書局）等人全程參與會議，宮岡真央子（福岡大學）幾經掙扎，仍然判定盛會不可缺，忙碌到當天一早才能從福岡帶著長崎蜂蜜蛋糕匆匆趕到會場。

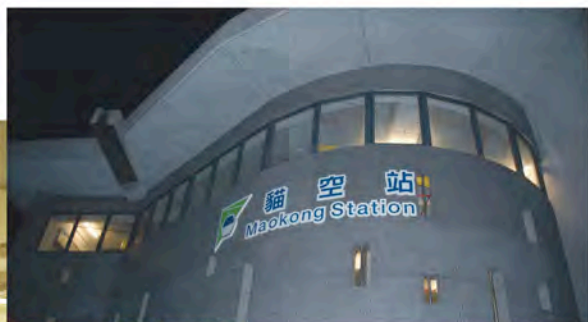
專題演講《馬淵東一與台灣原住民研究》之簡報。

丸雅邦、王雅萍、李宜憲、テラ・ユダウ、イワン・ナウイなど学界の新鋭や、汪明輝（台湾師範大學地理学科）、林益仁（静宜大学南島民族研究センター）、劉益昌（中央研究院歷史言語研究所）、蔡中涵（台湾原住民教授協會）、薛化元（政治大学台湾史研究所）がフォーラムで発言を行った。その他、謝繼昌（台湾大学人類学科）、堀江俊一（中京女子大学）、楊南郡（民間研究者）、三尾裕子（東京外國語大學）、魏德文（南天書局）などが全日程参加した。また、宮岡真央子（福岡大学）は悩んだ末、やはり参加しないわけにはいかないと、当日朝まで仕事をしてから、長崎カステラを手土産に福岡から会場へ駆けつけた。



原住民風味餐，融洽愉快的用餐氣氛環繞現場。





酒酣耳熱之際，搭貓纜凌空而下。

【原住民風味餐與貓空高歌】

第一天的晚宴，安排了道地的原住民風味餐，用阿美族的海產配排灣族的山產，從屏東和台東產地直送，每道菜皆附上原語菜名及說明，食出有名，與會者反覆咀嚼。第二天會議結束後，邀請日本學者到政大後山貓空的茶藝館，宴席間大家即興唱歌，但是同歌不同歌詞，一邊冷一邊熱（「北国の春」vs「榕樹下」），一邊要出帆一邊要出嫁（「ソーラン節」vs「素蘭要出嫁」）氣氛high到最高點，酒酣耳熱之餘，搭貓纜凌空而下，互道相逢在明年。

【原住民料理と猫空に響く歌声】

一日目の夕食会では本場の原住民料理を準備した。屏東と台東の産地から直送されたアミ族の海の幸とパイワン族の山の幸で、料理にはそれぞれ原住民語の料理名とその説明を付けた。さすがにこの場に登場するだけあり、参加者は飽きることなく堪能した。二日目のフォーラム終了後は、政治大学の裏山である猫空の茶芸館に日本人研究者を招待し、宴の席では皆、即興で歌を歌った。寒さと暑さ（「北国の春」VS「榕樹下」）、船出と嫁入り（「ソーラン節」VS「素蘭要出嫁」）と、同じ歌と違う歌詞で最高潮に盛り上がり、空の下を行く猫空ケーブルカーの中、ほろ酔い機嫌を残しつつ「来年もまた会いましょう」と互いに言葉を交わした。